

# 「世界を見てきて感じたこと、そして伝えたいこと」

## 京都学園大学 講師 三浦 重則 先生

10月18日（金）特設4限に京都学園大学 講師 三浦 重則 先生から全校生徒を対象に講演していただきました。この取組は、府立高校特色化事業「久美高・輝・プラン」の一環で、自身の在り方・生き方を考える目的でこの講演会を企画しました。

先生は陸上競技（投てき）やパワーリフティングの競技・指導を通じて、全部で48回海外に行かれています。

まず世界の国々の素晴らしい自然（白夜）や食文化、建造物（タージ・マハール等）について紹介していただきました。また、未だ貧しく、差別に苦しんでいる国々がまだまだあり、特にナチスドイツのアウシュビッツ、南アフリカのアパルトヘイト（居住区）に行かれる中で、虐殺や差別の悲惨さにも触れられ、豊富なスライドを元に丁寧に説明していただきました。その中で、不平不満や文句を言わず、努力することの大切さを教えていただきました。

最後に「人間の体は130歳まで働くようにできている。平均寿命の80数歳までではなく、大きな目標や夢（希望）を持って、計画的にこの先の人生を送って欲しい。」と結ばれました。生徒達も熱心に聞き入っていました。

